

こんにちは

# 仙北市議会

です



No. 36

2014年11月1日 発行  
発行 仙北市議会  
編集 仙北市議会  
広報編集・特別委員会



目次

第5回仙北市議会9月定例会	……2P
予算常任委員会報告	……3P
一般質問	……4～8P
各常任委員会	……9～11P
議会報告会開催予定	……12P
平成26年産米価の大幅下落に 関する対策を求める決議	……13P
行政視察研修報告	……15P
傍聴席・編集後記	……16P

第29回田沢湖マラソン

説明は15ページ

## 議会報告会開催のご案内

詳しくは12ページをご覧ください。

## 第5回 仙北市議会9月定例会

# 9月定例会補正額 3億6千203万円に 補正後累計は187億3979万円に

9月定例会は9月3日から26日までの24日間の会期で開催された。最終日に追加提案があり、14年度一般会計補正予算案、13年度病院事業会計決算認定案等28件を可決、認定。13年度一般会計決算認定案は継続審査とし閉会した。今回の補正額は3億6203万円で補正後累計は187億3979万円となる。特筆すべき部分として最終日に市の財政健全化判断比率・資金不足比率の報告があった。実質赤字比率・連結実質赤字比率ともに健全化基準以下であり、実質公債費比率15・0割、将来負担比率101・4割と着実な健全化を見せている。ここ数年団塊の世代を中心に退職者が激増した事に対して出来る限り新規採用者を絞ってきた事が功を奏したと言える。今後の財政を含む市政の大きな不安要因としては、直接今回の議案には関係がないものの、「バイオマス発電所の火災」「市立角館病院の入札不調」「唐突な形の本庁舎建設場所変更素案発表」「誘致予定の㈱司食品工業から用地の追加要求」など、いずれも難しい問題が山積する中、昨年議会で否決されたクニマス資料館の

用地調査費の再提案や、来年度から保育園の民営化の議案が提出されるなど大変にぎやかな定例会になった。いずれも選択を誤れば今後の市政に波乱を含む、合併以来恐らく最大最多の問題と課題が浮上した。

先送りしてきた課題や予期せぬ問題が次々と発生する中で、あえて火中の栗を拾うようにクニマス未来館の建設を再提案せざるを得ない背景には、そもそも市当局が県にお願いして、県との協働プログラムとしてスタートしたこの事業が、昨年本市議会で否決されており、県としても本案件に時限がせまりつつあり、廃案を避けたい門協市政として予断を許さない状況にあった。そうした中で予算委員会の最終盤で（今後の田沢湖全体の観光振興を考えると、大沢地区では特に冬季の誘客に不安があり、用地選定にももう少し時間をかけて精査する必要があるとして）再びこの予算案を修正すべく、議員から（用地調査費の5.4万円を予備費に振替える）修正案が提出された。多くの議員がこの施設は将来に渡って財政を蝕み続けるのではないかとの不

安と、地域的な思いが複雑に交錯する中、修正案は否決され事実上クニマス未来館の湖畔、大沢地区への建設が承認された形に。

市の誘致企業として用地取得を終えた生保内黒沢地区に建設予定の㈱司食品工業（本社東京）の滝本社長が先日来庁して産業建設委員会に出席した。席上、委員の質問に対して感情的な問題発言をするなど、市のこれまでの用地取得の遅れに対して強い苛立ちを見せた上、更に工場敷地の除排雪場所として用地取得を要求した。委員一同滝本社長の問題発言に著しく心象を害したが、（滝本社長によると）誘致工場の規模をさらに拡大して40億円の投資を見込み、製造工程も5ラインに拡大、80名程度の雇用を予定し、「その多くを正社員として採用」更に「工場の建設前に従業員を前倒し採用し、青森工場などに研修に出す」「給料は首都圏並みにする」などの魅力的な発言に期待する一面もあった。

（阿部則比古記）

# 予算常任委員会報告

平成26年度一般会計補正予算（第3号）及び平成25年年度一般会計、歳入歳出決算認定についての2議案を9月16日・24日の2日間の日程で審査した。（各分科会の質疑は、委員会報告にて記載）

## クニマス未来館建設に修正案提出される

### 継続的な施設運営の計画を示せ！

#### 修正案提出理由

- 1、クニマス未来館建設後に
- 2、維持管理の為の経費に係る財源捻出の議論が噛み合わない。
- 3、費用対効果、冬期の集客対策についての議論不足。
- 4、仙北市全体、田沢湖全体

の観光振興計画において、核とすべき明確な位置づけが必要である。

#### ■修正案に対する討論 反対討論

提案者が、仙北市あるいは田沢湖全体の観光振興の明確な案を持ち、クニマス未来館がその案に合致しないという事なら理解できるが、そうしたビジョンがないままの修正案には反対である。

#### 賛成討論

検討すべき課題が残された

ままで見切り発車せず、十分に施設の機能を果たし、田沢湖再生につながる断言できるまで細部にわたる議論の積み重ねが必要であることから、現時点では修正すべきである。

【採決】賛成少数により、修正案は否決されました。

#### ■補正予算原案に対する討論 反対討論

旧町村時代の高度成長期の時代であればいざ知らず、「ただ箱物を造れば良い」という時代は過ぎている。

各地方自治体の財政事情が非常に厳しいおり、当然、慎重を期すべきである事から、補正予算に反対する。

#### 賛成討論

修正案の提案理由に指摘されるように、確かに計画内容が不確定な部分が多少なりとも見受けられる。しかし、それらの課題をしっかりと湖畔の活性化につなげられるよう、要望して原案に賛成する。

【採決】賛成多数で、原案は可決されました。

（熊谷一夫記）

# 「議会改革推進協議会」設置される

議会基本条例に基づき、議会改革を進めるため、議長の諮問機関である「議会改革推進協議会」が設置された。（任期は平成26年9月26日～平成28年5月7日）委員は次の6名である。

- ◎座長 黒沢龍己委員
- 副座長 真崎寿浩委員
- 高橋豪委員、熊谷一夫委員、門脇民夫委員、平岡裕子委員

## これまでの議会改革の経過

主な成果等

### 1 行政改革特別委員会

（平成19年3月22日～平成22年1月20日）

①議員報酬の8%相当削減

（平成20年3月19日議決  
平成29年4月1日）

②定数の削減 24名→22名

（平成21年6月23日議決  
平成22年改選時）

③福祉施設の民営化

### 2 議会改革推進協議会（第1次）

（平成21年3月19日～平成21年8月4日）

①平成22年3月21日議会基本条例議決→平成23年5月1日施行

②仙北市議会運用例の改正

③議会改革推進協議会（第2次）

（平成23年3月18日～平成23年10月11日）

①議員賛否の公表（平成23年6月）

②本会議インターネットライブ中継（試行平成23年12月）

③定数の削減22名→19名（平成23年12月21日議決平成26年改選）

④議員報酬の5%相当削減（平成23年12月21日議決平成24年4月1日～平成25年3月31日までの時限）

⑤議長 375千円→356千円

⑥副議長 328千円→311千円

⑦議員 312千円→296千円

⑧常任委員会の再編

⑨総務・総務文教、教育民生→市民福祉（平成24年3月23日議決）

⑩予算・決算常任委員会の新設（平成24年3月23日議決）

⑪議会報告会の実施（平成25年7月14日）

⑫選挙公営制度の実施（平成26年6月25日議決）

⑬議会報告会の実施（平成24年5月17日平成24年11月18日）

⑭議会改革推進協議会（第3次）

（平成24年6月29日～平成26年1月15日）

①議会報告会の実施（平成25年7月14日）

②選挙公営制度の実施（平成26年6月25日議決）

③予算・決算常任委員会インターネットライブ中継（試行平成24年12月）

④議員報酬の5%相当削減の延長（平成26年3月31日まで）

⑤

統合庁舎整備の具体案を示せ

市長 市民の利便性を確保

仁政クラブ 高橋 豪 議員



統合庁舎整備について

問

先日、統合庁舎整備の素案が示された。これまで市は、面積やアクセスの課題により中心市街地への整備は厳しいとの考えを示していたが、今回、角館病院移転後の跡地を活用するという案に至った背景を伺う。

答

統合庁舎の建設場所について、重要な条件の一つが敷地面積の確保だが、この条件を満たすことが確認でき、建設等が可能であれば中心市街地にも整備はできる。最初から中心市街地を建設地の対象から外すという意図は毛頭ない。今まで数値化されていなかった概算事業費や必要な敷地面積等、基礎資料の整理、集計作業を行い、これをもとに、さまざまな角度から比較検討を行った。職員数等から建設の必要面積を割り出し配置も検討した。併せて、既存施設を活用しての

事業費抑制や、市民の利便性を確保するため、国道等からのアクセスにも配慮した。また、他の官公署との関係や広域行政・地域防災の観点から、県庁や広域圏域との距離も考慮した。これらを総合的に検討した結果、事業費、交通事情等の両面とも、病院活用案が優位に立っているため、最良の位置と判断して提案した。

問

将来の人口減少を見据え、庁舎の基本的機能に加え、商業施設、観光拠点、高齢者の集いの場、子育て支援の拠点など複合的な要素を取り入れるべきであるかどうか。

答

庁舎をまちづくりの拠点とする考えに賛同するなど様々な内容を検討している。民間との連携も考える。田沢湖や西木地区の利便性も確保するため、各庁舎等をつ

なく無料シャトルバスの運行も考えている。

問

田沢湖庁舎や西木庁舎はどうなるのか。

答

田沢湖庁舎には、温泉と健康を核としたまちづくりを目的に、統合庁舎整備を待たずして「スポーツ振興室」を設置する。また、西木地区はグリーンツーリズム等の実績が豊富で、生涯学習とも密接に関連をすることから、その核の施設として既存施設を可能な限り活用し、中央公民館や農山村体験交流推進室を設置したい。

（株）食品工業の誘致

問

市は生保内字黒沢地内の用地を取得し誘致準備を進めているが、現在地を候補とした経緯を確認する。

答

企業側による2回の視察を経て、面積や物流、地下水の水質などを考慮

問

産業建設委員会協議会において先方社長から「あまり良い土地ではなく手を引きたい」などの発言があった。協議は噛み合っているのか。

答

通常は工業団地があつて、インフラが整備済みの場所に企業が進出する形が一般的だが、今回は全くないところから作り上げる状況にある。また、法定日数を要する手続なども発生するため、社長本人が想定していたとおりに進まない場面も多分であり、そういった発言となつたのではないかと。

問

6月議会で用地取得が議決されているが、その後間もなく面積が足りず買い足したいということになった。また、市道の拡幅など企業側の新たな要望も明らかになった。議会へのこれまでの説明と大きく変わったかどうか。

答

6月の段階では、会社側の計画の詳細や図面等が流動的な状況であつたが、市に対し面積が足りない旨の要望は出されていなかった。その後、会社側で施設整備の事前調査が終了し、工場全体配置の図面が完成したこ

とから、7月18日に社長と設計業者が現状と図面を確認した結果、土地面積が足りないと判断に至つた。また、市道拡幅については、大型車両が国道から出入りする際、路上待機などで危険が伴うため、企業側として、市道から会社敷地に向かう方が安全と判断しての要望である。

問

結局現地法人はいつ立ち上がるのか。

答

追加で取得しようとする用地が確実に取得され使用できるようになり、また、市道等も拡幅されることとが現地法人設立の条件と捉えている。

(高久昭二記)



どうなる統合庁舎？



## 市立病院の医療局・管理者の権限を強化せよ

### 市長 組織再編・機構改革で改善

民政会議 安藤 武 議員

**医療局と病院管理者の権限をさらに強化すべきでないか**

**問** 市長、病院管理者、角館・田沢湖両病院の院長の考え方が同じ方向を向いたとき初めて経営が安定する方向に向かうと考えられるが、現在はばらばらの方向で推移している。病院のトップには経営手腕は問われて当たり前です。経営のわからない医師と医療のわからない事務では、病院の建て直しはとても難しいとされている。市長もこの点から医療局、病院管理者の設置をしたと思うが、機能を十分発揮していないので一刻も早く医療局と管理者の権限をさらに強化すべきでないか。

**組織改革を実施して医療事業課題の解決に向けて努力していく**

**答**

医療局は昨年度まで病院事業の内部組織として設置していたが、分掌事務上の制約等があったと反省し十分果たせなかったと反省している。今年の4月の組織再編、機構改革で、病院管理者の直下直結に医療局を置き、その下に二つの市立病院を置き、置くという体制に改善し、仙北市が抱えている医療事業課題の解決に向けて、管理者にはさらに力強く、また、関係者との協力状況をつくり前進していただく。

**市立角館総合病院建設により、高度な医療技術で黒字化に向けてスタートを**

**問**

宮川病院管理者によると、市立角館総合病院は、急性期病院を目指すとのことだが、実際の患者は慢性的期が大多数だと思われる。どんな患者も受け入れるとい

うのは理解できるが、病院の特徴を曖昧にし、忙しい割には、収益に繋がらないという結果になる。新病院の建設により高度な医療技術が必要とする外来、入院患者を受け入れることのできる医師、スタッフがいって高い診療報酬により黒字化に向けてスタートできると思うがどうか。

**医師不足の現状では高度な医療技術を持つ医師の招聘は厳しい**

**答** 医師不足、医療関係者不足により全ての医



新築し高度な医療技術で黒字化へ

療を角館病院で完結するのは無理だと解釈している。急性期の患者は受け入れるが、患者の状況に応じて高度の専門的な医療機関に転送することを考えており、これからはそういう棲み分けの病院を築き、特徴をつくり市民の急性期病棟をつくり市民の方々の安心・安全を図りたい。また、医師不足の現状では高度な医療技術を持つ医師の招聘は厳しいと考える。

**国家戦略特区と田沢湖病院との関係について**

**問**

国家戦略特区の申請について、新聞で仙北市は外国人医師の市内での医療行為の解禁、公設病院への異なる医療機関の同居の容認等を国に申請したと報道されている。この特区と田沢湖病院との関係についてのどのように想定しているのか伺う。

**田沢湖病院を、玉川温泉を含めた、がんや温泉療養に対応できる病院化へ**

**答**

国家戦略特区への提案案の一つとして、外国人を含めた温泉活用、湯治型医療ツーリズムを提案し

ている。玉川温泉を初めたくさんの温泉が仙北市内にはある。国際的にも希有な泉質に恵まれた田沢湖の各温泉、これを医療ツーリズムに活用することができれば、小さな地方都市の中の患者数に限らない、需要が世界に存在することは自明の理である。

今回の特区で田沢湖病院を、玉川温泉を含めた、がんや温泉療養に対応できる病院化への道筋を模索したい。

(門脇民夫記)



特区で田沢湖病院をがん療養病院へ



玉川温泉

子ども・子育て新制度で  
どう変わる

市長 生保内・神代は「認定子ども園」へ

日本共産党 平岡裕子 議員



子ども子育て新制度について

**問** 来年春からの子ども子育て新制度によって、市内保育園・幼稚園の入園手続きや保育料はどのように変わるのか？

**答** 新制度では教育・保育を利用する子供が入園する前に保育認定を受ける必要がある。入園するには入園の申込書と新たに保育認定申請が必要となる。手続きが増えるが保護者の負担にならないように配慮したい。保育料は現行の料金を参考にしながら負担増とならないように調整する。



神代小学校

**問** 保育士の配置基準を見直して今よりも充実させてはどうか。

**答** 今後とも国の基準に従う。保育士が不足している状況だが、今後法人運営に切り替えることにより就業状況等を改善したい。

**問** 新制度では、放課後児童クラブが、小学校6年生まで利用できるようにする。受け入れ体制は大丈夫か。

**答** 神代小学校のポプラ学園と西明寺小学校のマロンクラブの2カ所が面積の関係から受け入れが困難な状況である。小学校の空き教室を利用することなどを検討し、早期受け入れを実現したい。

**問** 平成27年度の重要保護児童に対する就学援助体制はどうなるのか。

**答** 現在も生活扶助基準の見直しによる影響が

出ないように配慮している。また消費税増税分も勘案している。来年度も十分に配慮したい。

**問** 子どもの医療費助成を中学生までに拡充するべきではないか。

**答** 中学生の入院については現在も助成しているが、通院については、試算をした結果、財政的に困難である。今後とも検討したい。

除排雪対策について

**問** 除排雪の支援制度について、対象者を拡充し、制度を柔軟なものへと変更してはどうか。

**答** 年齢や障害等級などを満たさないために規定上、支援対象から外れる場合も十分推測される。これを補完するためには、地域運営隊の継続的な支援や、市民ボランティア、社会福祉協議会など

からの応援や協力体制が不可欠だと考える。雪が降る前に、不安を払拭できるよう、システムの構築を行っていきたい。

国保税の負担軽減を

**問** 国保税の負担軽減を求めるとはどうか。

**答** 平成28年から3年間の第2期計画において、医療費増加による急激な負担を緩和するため、第1期計画の期間内に積み立てた基金を活用する予定である。国の動向等を見極めながら運営をしたい。

米価下落対策について

**問** 米価下落により、市内では約8億6千万円もの収入減少が予測される。米価下落対策についての市長の考えを伺う。

**答** 本年度からの新たな日本型直接支払制度等を軸に市でも応分の負担をしながら下支えしたい。また、農業振興を図るため本年度中



神代カントリーセンター

に仙北市農業振興ビジョンを策定するため準備を進めている。

集団的自衛権について

**問** 集団的自衛権の行使容認と自衛隊員の安全について市長の見解を伺う。

**答** 防衛という国家として最も重要な事案について、さらに憲法9条の解釈に関する重大な判断について、一内閣の閣議決定という形で物事を進めたこの過程については大変残念に思っている。

市議会選挙で選挙公報を

**問** 市民の関心事である市議会議員選挙において、市の責任で全候補者を事前に有権者に知らせるため、選挙公報を発行することは最低限必要なことではないのか。

**答** 市の選挙では告示日から投票日前日まで七日間という極めて短い期間しかなく、その中で受付、印刷などといった作業を確実に有権者に届ける必要がある。今後、調査・研究を進め検討していきたい。

(高橋 豪記)

用語解説

認定こども園・保育園・幼稚園の両方の良さを併せ持ち、教育・保育を一体的に行う施設。保護者が働いている・いないに関わらず利用できる。



## ふるさと納税の充実を図れ

### 市長 掘り起こす 制度活用で経済の活力を

民政会議 門脇 民夫 議員

**ふるさと納税の納付者へ市特産品等を返礼として送る納付制度とすべきでないか**

**問** ふるさと納税は、自分の故郷や支援をした  
い県、市町村に寄附をして、  
応援をする制度で、寄附をし  
た金額から2,000円を引  
いた金額を確定申告をすれば

自分の所得から、その分控除され、所得税と翌年度の住民税が控除される制度である。平成25年度の地方自治体に納付されたふるさと納税の総額は130億円を超えている。特に納税をしてくれた方に市内産業の活性化と市PRを兼ねて特産品を返礼として贈る自治体へのふさと納税は急伸している。

仙北市は東北を代表する観光地で多くの特産品があり、その宿泊券等を返礼として送る納付制度とすることにより市内産業の振興と市のPR、そして、ふるさと納税額のアップにも繋がるのではないかと。

**ふるさと納税の納付者へ市特産品等の多様な返礼をする納付制度とする**

**答** 仙北市では、ふるさと納税の本来の趣旨で



多種多様な返礼品の贈呈でふるさと納税を増額へ  
(長崎県平戸市の返礼品)

秋田スギバイオエネルギーセンターは再稼働できるのか

**問** 平成22年稼働後、エネルギーセンターは計画された数値を1度も達成していない。

また、稼働後正常運転ができなかったため、月島機械の負担による改良がおこなわれたが、それでも正常な運行ができないのは、月島機械に正常な運行ができる技術力がないからではないか。さらに、現在エネルギーセンターは火災により休業中であるが、再開には11億円が必要と発表されている。施設の再開はあるのか。

**国、県等と協議中なので12月まで結論を出したい**

**答** バイオエネルギーは新しい分野で、各企業において試行錯誤を繰り返しながら進んでいるのが現状である。特に本市のような規模の小さいガス化施設においては、目標値を達成している施設はないと聞いている。施設を再開するには建物内



被災したバイオエネルギーセンター

の設備を他の場所に移動し火災で被災した建物の部分を解体し、再建築をした後、移動していた設備を建物内に設置しなければならぬために11億円が必要となっている。施設の再稼働については、国、県等と現在協議中でありませんが、今後の補助事業を含め、再開した場合、廃止した場合、どちらが仙北市にとって良いのか、12月まで結論を出したい。

(阿部則比古記)



小・中の積極的な統廃合を

教育長 強い課題意識を持ち検討

仁政クラブ 佐藤 大成 議員

消極的ではない、積極的な小中学校の統廃合を

**問** 政府が小中学校の統廃合に関する指針を見直し、学校の再編による規模拡大を積極的に後押しする方針を固めた。県内においても、既に多くの市町村で進められている。仙北市の現状を見ると統廃合の動きは鈍く、生徒にとってもそして市においても望ましい状況であるとは思えない。統廃合を進めるメリットは大きい。具体的には、スポーツ・文化活動の充実、ふるさと教育の充実、旧町村の枠を超えた生徒同

士の交流、「仲間づくり」の育成、生徒へのサポートの充実、市財政の節減、教育現場で抱える問題の解消が想定される。市当局には、1、小中学校



どうする統廃合

の統廃合に関する意識、2、メリット・デメリットの認識、3、小規模校を運営する中で

**答** 小中学校統廃合に関して、最重要課題として協議を重ねている。メリットについては佐藤議員ご指摘の通りと認識している。課題としては、特に、社会性やコミュニケーション能力の育成、少年団・部活動等の多様な教育環境の整備を懸念している。現在では、具体的な方針はないが、統廃合については今後大いに議論し、慎重に進めていきたい。

**問** 少子高齢化が激しい自治体において、特に

仙北市で暮らしている『生活モデル』『生活スタイル』の作成・提示・普及について

若者をターゲットとして、人口ピラミッドの変容を早急に目指さなければならぬ。その中で、核となってくるのは、秋田県出身はもちろん、全国の若者に対して、秋田県仙北市で暮らしている『生活モデル』『生活スタイル』の提示・普及活動を行うことだと考える。市当局には、1、市としての意識、2、以前の作成の実績、利活用手法とその効果、3、仙北市のアピールポイントは何か、の3点を伺う。

**答** 大変興味深い質問を頂いた。作成実績はない。移住人口の拡大効果が見込まれるものであり、来年度の仙北市総合計画の変更作業を行うにあたり、庁内で検討を行いたい。所得向上も進めていくと共に、仙北市の持つQOLに寄与する資産等も研究していく。また、普及活動が仙北市は弱いのではないのかという議員ご指摘の通り、情報提供・普及活動についてもあらゆる視点から改善を進めていきたい。

稼ぐ自治体へ

**問** ふるさと納税や『〇〇市ブランド』のよう

に、これからの自治体には、自治体自身が収入を増やそうとする、いわゆる「稼ぐ姿勢」が求められる。

特に、仙北市は全国でも有数の観光地であり、魅力的な博物館等の建設は1つの手法であると考ええる。また、現代における良い施設とは、建設意義が明確で、黒字であるという2点を満たしていることが必要だと考える。市当局には、

1、稼ぐ姿勢、2、現在の建設立案中のクニマス未来館の黒字化策

**答** 最小経費による最大効果を発現するという経営の努力を意識し、覚悟をもって当たりたい。またクニマス未来館の持つ機能から、黒字にすることのみが目的であるとは思っていない。試算では、クニマス未来館の年間経費は930万円かかる。これに対して、入館料収入だけでは補填は困難であり、様々な黒字策を検討する。

(黒沢龍己記)

用語解説

- ・人口ピラミッド…男女別に年齢ごとの人口を表したグラフのこと。
- ・QOL…1人1人の人生の質や社会的にみた生活の質のこと。



# 総務文教常任委員会

## 「クニマス未来館建設地」地質調査費に議論集中

田沢湖再生と市全体の観光客増加に有機的結びつきを強めるための施設建設へ !!

### 一般会計補正予算

**質問** あきた未来づくり協働プログラム（クニマス未来館建設）は、昨年の9月議会に同じ形で提案されたが、田沢湖再生の全体像等が示されていない等々、様々な理由により予備費に回す修正案が可決されたところであるが、何故同じ形で提案するのか。

**答弁** 昨年提案した際に、田沢湖再生におけるクニマス未来館建設の意義、建設場所が適切か、既存施設の取り扱い、未来館の運営方法等について明確に提示されていなかったからと理解している。建設の意義については、田沢湖再生のシンボルとしての事業を進めることはもちろんであるが、そこを訪れる観光客が市の他の観光施設も訪れ、仙北市の滞在時間が長くなるような有機的結びつきを強め、市全体の観光客の増加へと結びつける事業にすることである。建設場所についてはかつて大沢集落の沖合でクニマス漁が行われ、クニマス塚や、漁具を作ったマユ塚もあり、クニマスに関する文献が多く存在し、思い入れも強く、集落の方々による施設運営等への協力体制が築ける。既存施設の取り扱いについて、白浜の郷土資料館にあるクニマス関係資料はクニマス未来館へ移動し、それ以外の展示物については他の場所で展示する。運営方法については、指定管理者制度を導入し、入館者3万人を目指す。ふるさと納税等多様な資金調達による収入も考えている。



クニマス未来館建設予定地

### 決定した補正予算（主なもの）

- 社会保障・税番号制度整備費 2,073万円（年金等と税金を番号で管理するシステム整備費）
- 「クニマス未来館建設地」地質調査費 5万円（地質調査委託費）
- 白岩小学校、生保内小学校工事費 540万円（白岩小バルコニー改築・生保内小床貼替）
- 市民会館管理費 543万円（暗幕更新、緞帳修理）
- 国重要文化財消防設備補助金 324万円（堂田・草薙家消防ポンプ更新）

## 平成25年度特別会計決算認定される

### 生保内財産区・質疑応答

**質問** 田沢湖スキー場に、モーグルスキーワールドカップ開催に向けて、ゲレンデの整備や建物を建てる必要があるとのことだが、財産区管理会では了承しているか。

**答弁** 契約の際に「現状を変更する場合は、協議すること。」との条文があり管理会では、現地を視察後県と協議を行い松の木の間伐と土を動かすことは了解したが、ジャッジハウスの建設については、施設が今後どこで管理していくかについて再協議をしたいという回答を準備している。



モーグルワールドカップ開催が待たれる黒森ゲレンデ

### 平成25年度 特別会計 決算（歳出総額）

- ◇ 集中管理特別会計  
歳出 43億5,257万円
- ◇ 生保内財産区特別会計  
歳出 1億0,108万円
- ◇ 田沢財産区特別会計  
歳出 3,502万円
- ◇ 雲然財産区特別会計  
歳出 292万円



# 市民福祉常任委員会

## 子ども・子育て支援新制度 H27年度からスタート 保育園・幼稚園の充実を！ 関係条例3つを審査

～ 生保内・神代は「認定こども園」へ 放課後児童クラブは小学校6年生まで利用可能 ～

国の政策により、平成 27 年度から「子ども・子育て支援新制度」がスタートするのに伴い、3つの関係条例が審査されました。

新しい制度により、市内の幼稚園・保育園の入園手続きや仕組みが変更されるため、委員からは保護者の方々に対する丁寧な説明を求める意見が相次ぎました。

### ◇ 新しい制度によって変わる事

- 1、保育園・幼稚園の申請手続きの仕方
- 2、生保内・神代の保育園・幼稚園を「認定こども園」へ
- 3、放課後児童クラブの利用が現在の小3から小6まで可能に
- 4、市町村は5年間の子育て支援計画を策定
- 5、H28年度から認定こども園を対象に法人運営に転換



### 委員会質疑「幼保の法人運営化について」

**質問** 保護者や保育士の理解を得ながら慎重に進めるべきでは？

**答弁** 時期についてはあくまでH28年を目標とするものであり、理解の得られないまま見切り発車はしない。

## 平成25年度市立病院決算は1億9290万円の赤字!!

自治体病院を取り巻く環境は依然として厳しい ～求められる信頼と安定経営～

平成 25 年度市立病院の決算審査が行われ認定されました。慢性的な医師・看護師不足や患者ニーズの多様化により、自治体病院を取り巻く環境は益々厳しさを増しています。市議会では、平成 27 年度の角館総合病院移転改築に向け、より市民に信頼される病院であるために経営の安定化を強く求めます。

平成25年度市立病院事業決算 単位：千円

	角館病院	田沢湖病院	医療局	合計
医業収益	3,670,211	912,490	0	4,582,701
医業費用	3,986,303	1,079,150	32,350	5,097,803
医業利益	-316,092	-166,660	-32,350	-515,102
医業外収益	344,292	117,682	11	461,985
医業外費用	87,327	52,436	62	139,825
経常利益	-59,127	-101,414	-32,401	-192,942

### 委員会質疑

**質問** 研修医受入の効果は？

**答弁** 研修医の集まる病院は魅力のある病院でもありリピーターになって欲しい。医師確保対策として数年先を見据え受入をしている。

### 補正予算

～こんな内容を決めました～

- 認可保育園管理運営費 439 万円……市内保育園の修繕などにかかる費用
- 予防事業費 875 万円……予防接種事業にかかる費用

### 保育園の修繕などについて

**質問** 神代保育園駐車場改修の内容は？

**答弁** 駐車場が狭いためフェンスを撤去しラインを引く。

**質問** 角館西保育園の水道工事の内容は？

**答弁** 井戸から上水使用への切り替え工事。付随して受水槽等の撤去とボイラーの更新も行う。

### 平成25年度

### 特別会計決算(歳出総額)

- ◇ 国民健康保険 37 億 8,400 万円
- ◇ 後期高齢者医療 2 億 9,050 万円
- ◇ 介護保険 4 億 3,560 万円



# 産業建設常任委員会

## 平成26年産 米価大幅下落!! 経済に大ダメージ 確実 対策を急げ

あきたこまち(1等)60キロあたり概算金(JA全農あきた)は前年比-3,000円の **8,500円**

産業建設常任委員会では、9月12日にJA全農あきたが発表した26年産米に対する概算金が前年を大幅に下回る8,500円と暴落したことを受け、農業者はもとより、市内経済に大きな影響を及ぼすものと判断し、市に対し米価下落対策を求めるため本会議において決議案を提出し、全会一致で採択されました。

### 【決議した内容】

- 1、「米の収入減少影響緩和対策(ナラシ対策)」における補助金(国・県補助金)の早期支払いの実現について、国・県へ強く要請すること。
- 2、平成26年産米価下落等に対する低利の融資制度を創設すること。  
※ 仙北市独自の低利な農家支援資金の創設 ※ 県単独融資創設の場合、市として利子補給<sup>かさ</sup>の嵩上げをすること。
- 3、平成27年産米生産資材等に対して助成措置を講ずること。
- 4、その他あらゆる支援対策について国・県に求めると共に、市独自でも最大限の支援施策を速やかに行い、危機的状況を回避すること。

### 条例・補正予算 ~こんな内容を決めました~

#### ■仙北市工場立地法準則条例

工場立地の環境保全のため、緑地面積を定める条例

#### ■6次産業化人材育成事業費 455万円

県の緊急雇用対策交付金を使って、(株)あきた食彩プロデュースが行う事業へ人材雇用

#### ■学校給食地場食材利用拡大モデル事業費 115万円

学校給食の地元野菜使用率をアップさせるための事業

#### ■道路維持補修費 663万円

道路の維持管理や補修にかかる費用

#### ■冬期交通対策費(除雪費) 2億4,714万円

冬期間の道路除雪にかかる費用

#### ■市民参加型インフラ整備事業費 70万円

市民が行うインフラ整備事業に対し、上限10万円で資材を提供する制度(7件分)

#### ■住宅リフォーム促進事業費補助金 361万円

住宅をリフォームする際の補助金

### 学校給食にもっと地元食材を

**質問** 学校給食地場食材利用拡大モデル事業とは具体的にどんな事業か?

**答弁** 学校給食にもっと地場産食材を使用するため、工場視察やメニュー提案などを行う事業である。

**質問** 市民参加型インフラ整備事業費※は人気の事業なのでもっと予算を増やすべきでは?

**答弁** 実績を加味して来年度の予算に反映させる。



### 秋田スギバイオエネルギーセンター ~ 火災の損害額はおよそ11億円 ~

7月3日に発生した火災による損害総額が約11億円にのぼることが分かりました。(当初建設費は約6億円)

**質問** 運営の継続または廃止の判断はいつまでするのか?

**答弁** 現在、国・県と協議中であるが12月までには決める。



### 平成25年度 特別会計決算(歳出総額)

- ◇ 下水道事業 10億6,700万円
- ◇ 集落排水事業 3億4,000万円
- ◇ 浄化槽事業 1億1,300万円
- ◇ 簡易水道事業 4億4,500万円

### 平成25年度 企業会計決算(事業収益・事業利益)

- ◇ 温泉事業 3,150万円 (45万円)
- ◇ 水道事業 3億2,250万円 (326万円)



# 議会報告会開かれる！ 11月8日(土)13時30分より

より多くの市民のご参加をお待ちしております。

## 会場

地区名	会場名	電話番号
白岩地区	白岩集落センター	55-1310
田沢地区	田沢出張所	43-1351
桧木内地区	桧木内地区公民館	48-2220

皆さんお誘いの上、ご参加下さい！

## 班編成

白岩班	田沢湖班	桧木内班
八柳 良太郎	阿部 則比古	稲田 修
伊藤 邦彦	小林 幸悦	高久 昭二
安藤 武	荒木田 俊一	真崎 寿浩
黒沢 龍己	田口 寿宜	小田嶋 忠
熊谷 一夫	高橋 豪	大石 温基
佐藤 大成	平岡 裕子	門脇 民夫

## 前議長の佐藤峯夫氏、 総務大臣より 表彰される

3月に勇退された前議長の佐藤峯夫氏が、議長職を永年勤められ、地方自治に貢献された功績により、全国で1名、総務大臣より表彰を受けられました。誠にありがとうございます。



## 平成26年産米価の大幅下落に関する対策を求める決議

消費低迷や過剰在庫を背景に、平成26年産米の価格が全国的に大幅に落ち込んでいるが、本県、本市においてもその下落は著しく、9月12日にJA全農あきたが公表した平成26年産米に対する概算金は、「あきたこまち（1等）」で60キロあたり8,500円と、過去に類を見ないレベルまで大暴落している。

こうした米価の大幅な下落は、農業を基幹産業の一つとする本市にとって、農業関係者のもとより、市内経済全体に対し、多大な影響を及ぼすものであり、本市においては極めて緊急的事態と言える。

また、9月24日にはこうした事態を重く受け止めた仙北市農業委員会からも、米価下落対策について、市や議会に対応を求める要請書が提出されている。

市内の農業者は、米価下落による収入の減少によって生産資材や土地の賃借料を始めとした各種経費の支払いが大変困難となり、結果として生産者の生活を著しく脅かし、また、次年度以降の米の再生産を始め、今後の農業の継続についても危ぶまれる事態に発展していることを踏まえ、仙北市議会は、仙北市に対し、次の通り早急な対策を強く求める。

- 1、「米の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）」における補助金（国・県補助金）の早期支払いの実現について、国・県へ強く要請すること
- 2、平成26年産米価下落等に対する低利の融資制度を創設すること  
※仙北市独自の低利な農家支援資金の創設 ※県単独融資創設の場合、市として利子補給の嵩上げ
- 3、平成27年産米生産資材等に対して助成措置を講ずること
- 4、その他あらゆる支援対策について国・県に求めると共に、市独自でも最大限の支援施策を速やかに行い、危機的状況を回避すること

以上決議する。

平成26年9月26日

仙北市議会

10月17日  
臨時議会開催

## 米価下落対策 米価下落対策 60キロ当たり 200円の追加補助で農家を独自支援

9月定例会において議会から出された米価下落対策に関する決議を受けて、市では10月17日に臨時議会を開き、あきたこまち60キロあたり200円の追加補助など、独自対策を盛り込んだ補正予算3800万円を提案し、議会において可決しました。

### 支援策の具体的内容は？

- 特別融資制度に係る債務保証料の助成  
秋田県が創設した無利子の融資制度を利用する際に発生する保証料を全額負担
- 米の契約数量に対する出荷分への加算金  
主食用あきたこまちの出荷契約数量に対し、出荷量×200円（60キロ）

### 臨時議会質疑

**質問** 助成の対象が「あきたこまち」に限定されているが、「ゆめおぼこ」などを始め、全ての品種を対象にしなければ公平感に欠けるのでは？

**答弁** 緊急対策として、まずは影響が最も大きい「あきたこまち」を対象とした。「あきたこまち」は作付全体の93%を占めているが、この後12月までに残りの品種についても対応したい。

### 補助対象品種の拡充を求める決議を全会一致で可決

市議会では、支援対象品種が「あきたこまち」に限定されていることから、「緊急支援事業拡充を求める決議」を議決し、「ゆめおぼこ」など他の品種についても補助対象とすることで公平性を担保することを提言しました。

# ちちぶバイオマス元気村発電所 研修視察報告

翠戀会  
公明党

7月30日に埼玉県秩父市のちちぶバイオマス元気村発電所を行政視察研修を行った。その研修内容を報告いたします。

## ○研修内容

### 1、バイオマス施設の これまでの経過と現 状及び故障の発生状 況と対応

ちちぶバイオマス元気村発電所施設は、「木質系バイオマスエネルギー事業」として平成19年4月に稼動した。運転時間が12時間/日運転で、平成24年8月22日に総発電電量100万kwhを達成。温水を元気村クラブハウス温浴施設や足湯などに供給していた。今年の3月15日にチップヤード付近から火災が発生。

2時間後に鎮火したが、消火の際に水をかぶったガス化炉や被害状況を視察しながら説明を聞くことができた。出火原因は不明との事である。

### 2、プラントメーカー の指導と対応状況

月1回メンテナンスを行っており、メーカーの月島機械(株)の担当者は、よく指導に来てくれて、火災時にも当日に駆けつけてくれたようだった。しかし、現在はバイオマス発電に関する開発・技術員を削減しており、ホームページからもバイオマス関連を削除している現状である。

### 3、今後の方針と課題

木質バイオマス発電事業を核とした「次世代型環境学習施設 吉田元気村」として取り組み、サニテーション施設(バイオマスを使用した排水処理施設)、てんぷら油リサイクル工場、体育館屋根に太陽光発電システム等もある。

多くの企業や小・中学校の環境プログラムとして活用しているだけに、発電再開を検討している状況であるとの事。しかし、建設コスト2億4360万円のうち、林野庁から1億円の交付金を受けており償還金も数千円ある。既に7千万円の基金も取り崩しており、厳しい状況であると話してくれた。

「秩父市 環境立市推進課としては、地域資源の有効活用を進め環境にやさしい循環型社会を目指すためにも、市には発電再開の方向で進めてもらいたいのだが」との本音を担当者は語ってくれた。

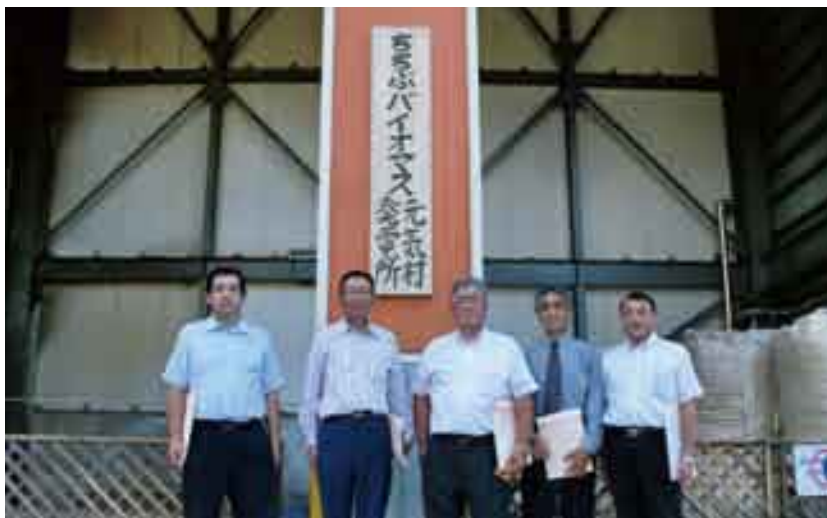


火災発生時、水をかぶったガス化炉

## ○感想

環境立市を推進し、循環型社会を目指している「ちちぶバイオマス発電所」なので期待もあつたが、仙北市で火災が発生する半年前に、同じような箇所からの出火とその後、状況を聞くと、今後のバイオマス発電施設の稼動が、いかに大変か浮き彫りにされた視察であった。この研修視察をこれからの仙北市議会の議論に活かしていかなければとの思いを強く抱いた、大変な意義な研修視察でした。

(熊谷一夫記)



バイオ施設チップヤード前にて

# 広報編集委員会

# 行政視察研修報告

議会広報の愛読率向上を目標として、さる8月19日に「平成24年度全国議会広報コンテスト最優秀賞」「25年度優秀賞」を受賞した山形県庄内町議会を訪問研修した。庄内町議会富樫議長・広報編集委員長・各委員・議会事務局職員の皆さんから歓迎いただきながら活発な意見交換を行った。庄内町議会は広報編集委員会を常任委員会（仙北市は特別委員会）にしており、議会改革と平行して広報の編集に力を入れているとの事だった。議会の改選があると新人議員に議会の早期理解してもらうために新人を全員編集委員にし、その分古参議員に辞表を提出してもらおうという。広報の印刷業者入札は、仙北市議会広報は16ページで年4回発行となっているが、庄内町では4回の総ページ数で入

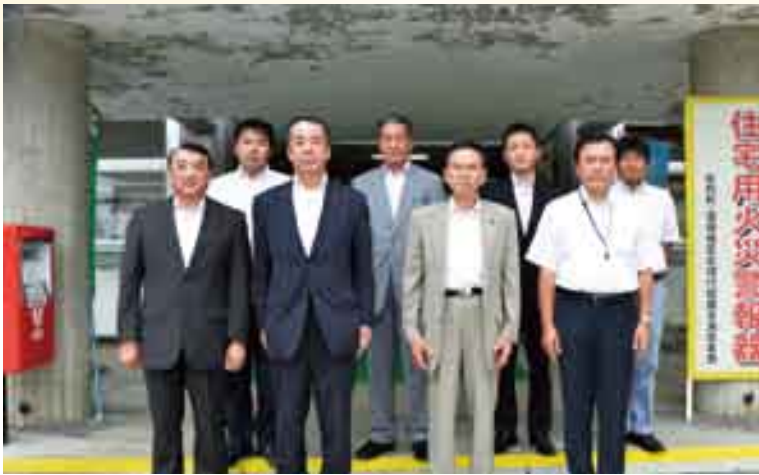
札させており、広報の内容によつてページ数に増減をつけられるようにしているそうだ。内容によっては、かなり町政にとつて微妙な問題も記事にしており、議会の与野党関係や町当局からもクレームの付く事もある

そうだが、そのつど議長判断で掲載の可否判断をしているとの事だった。

**感想** とんぼ 返りのあわただしい視察だったが、なかなか得がたい勉強になった。我々の編集委員会とは、良し悪しは別として驚くほど違う委員会構成や

編集方針だった。推し量るに、広報のみならず議会運営や他の部分についてもこうした違いがあるんだろうなと、大変感心させられた研修視察だった。

（阿部則比古記）



庄内町議会視察

## 人事案件

○固定資産評価審査委員

進藤 敏夫氏（仙北市角館町水ノ目沢14番地）

元野 英雄氏（仙北市田沢湖生保内字武蔵野82番地7）

本庄 護氏（仙北市西木町上松木内字大地田66番地）

○人権擁護委員

草薙 紀雄氏（仙北市角館町白岩字下掬54番地）

## 表紙の説明

さる9月21日、恒例の田沢湖マラソンが開催された。絶好の爽やかな秋日和の中、フルマラソン・20キロ・10キロ・ペアマラソン（3キロ）に総勢5279人がエントリーした。1968年のメキシコ五輪で銀メダルに輝いた君原健二選手が招待選手として10キロにエントリーするなど大いに盛り上がった第29回大会だった。本

老骨に鞭打って1時間35分52秒という20代30代の選手顔負けの驚くべき記録をたたき出した。気を良くした本人は（調子に乗ると膝痛めて歩けなくなるぞ、と言う周囲の助言をよそに）来年はまたフルマラソンに出たいと息巻いている。ジョギングしている稲田先輩を見かけたら声を掛けてやって下さい。

（阿部則比古記）

議会の期待のホープ稲田修選手が今年70歳以上の部20キロにチャレンジした。





国文祭・交流センターで講演する  
田中優子・法政大学総長

# 傍聴席

## 仙北市議会を傍聴して

赤坂和仁

九月三日開幕の第5回仙北市議会定例会を傍聴し、仙北市の今後を占う重要な方向性について、清々とした門脇市長の報告から始まった。①統合庁舎の整備②国家戦略特区への申請③市立角館総合病院改築事業④少子高齢化問題⑤農業・観光・新産業の振興による地域活性化事業等山積した事案が挙げられたが、3町村の合併で成立した当市の抱える深い悩みが感じられた。

各地域の代表である市議会議員は議会制民主主義の最小単位であるが、民意を自分の信念に基づいて議決権を行使するといった重要な責務がある。

人口減が加速度的に進行していく、都市力が消滅する危機的な状況だからこそ過去の柵に捕われず、明るい未来の仙北市のために「義に懲りて膾を吹く」ではなく「火中の栗を拾う」強い意志と実行力をもって、若手議員を中心としたスピーディーで前向き且つ建設的な議会運営に期待したい。

開かれた市議会に、市民も是非参加してみたいかができるのか。

# 控室

私たちは合併した時点で、好むと好まざるとに関わらず、将来にわたって予測可能な事柄は無論、予測不能だった部分も含めて、様々な（課題と言う）大きな荷物を背負い込んだ。その荷物の中で最大のものは出来る限り、旧3ヶ町村の均衡ある発展を図ってゆく、と言うものだったはずだ。もちろんそれぞれの立ち位置や考え方によって視点は異なるものの、民意のその最大公約数は厳然として

存在する。一般の市当局の唐突な本庁舎の提案はもとより、これまでの新角館病院の位置など、都市計画としての市のシンボルとでも言うべき部分に対する市政が、はたして民意の最大公約数の近傍にあるものなかどうか、すでに取り返しのつかない部分もあるが、せめて今後の選択部分においてはパブリックコメント的な、形ありきで内容の伴わないやりかたではなしに、大命題として20年或いは30年後の後世の批判に耐えるべく、民意の総意を探りながら今一度、立ち止まって熟慮に熟慮を重ねるべき時ではないだろうか。

(阿部則比古記)



国文祭で大好評だった議会の振る舞い餅

## 編集後記

「発見×創造 もうひとつの秋田」をテーマに第29回国民文化祭が始まった。

仙北市では、多くの事業が行われるが、飾山囃子や「仙北地方のささら」郷土民謡・手踊り・番楽など民俗芸能の宝庫である。更に文化芸術に関しても、芥川賞・直木賞作家や秋田蘭画、佐竹北家の文化、武家屋敷、樺細工、白岩焼等すべてが誇りを持って全国へ発信できる素晴らしい素材である。この文化・芸術を再発見し、創造と伝統芸能を引き継ぐ若者を育てる絶好のチャンスでもある。全国から本市を訪れるたくさんの人々を温かく迎えていきたい。

さて、議会だよりも今号より構成や見出しを変え、用語解説も多くし、より見やすく、読みやすく、分かりやすい紙面に一歩近づけたかなと思います。「日に新たに、日々に新たなり」との言葉のように、毎号新鮮な気持ちで、市民の皆さんに、より親しまれる議会だよりになるように作り上げてまいります。

(熊谷一夫記)

### 用語解説

・あつものにこりてなますをふく

…ある失敗に懲りて、必要以上に用心深くなり無意味な心配をすることのたとえ